



Cisco CloudCenter リリース 4.8.1 リリース ノート

初回更新日:2017 年 8 月 21 日

更新:2017 年 8 月 30 日

シスコシステムズ合同会社

〒 107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先:シスココンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS 含む)

電話受付時間:平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェアライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco および Cisco ロゴは、シスコや米国および他の国の関連会社の商標です。シスコの商標の一覧は <http://www.cisco.com/go/trademarks> [英語] を参照してください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco CloudCenter 4.8.1 リリース ノート

- [リリース日](#)
- [インストール](#)
- [アップグレード手順](#)
- [アーキテクチャ](#)
- [クラウド](#)
- [アプリケーションとサービス](#)
- [CloudCenter の管理](#)
- [管理およびガバナンス](#)
- [セキュリティ](#)
- [サポート終了通知](#)
- [廃止予定](#)
- [CCM UI](#)
- [API](#)
- [統合](#)
- [資料](#)
- [既知の問題](#)
- [解決済みの問題](#)

リリース日

CloudCenter 4.8.1: 2017 年 8 月 21 日

更新: 2017 年 8 月 30 日 (core_upgrade.bin および Microsoft Azure [Government](#) のリージョン)

インストール

CloudCenter 4.8.1 は、仮想アプライアンスとして利用可能です。詳細については、「[Virtual Appliance Overview](#)」を参照してください。

- CCO ウィザードが強化され、[Config_Duration] 画面にすべての CCO 関連のタイムアウトが含まれるようになりました。詳細については、「[Per Cloud Region \(Required\)](#)」の「CCO」>「Configure CCO Wizard Properties」>「Config_Duration」を参照してください。
- リポジトリ(Repo)ウィザードの [バンドルフォルダ (Bundle Folder)] プロパティと [バンドル URL (Bundle URL)] プロパティは、個別に設定する必要があります。詳細については、「[Repo \(Conditional\)](#)」を参照してください。これは変更です!
- CCO ウィザードの [Docker コンテナ タイムアウト (Docker Container Timeout)] フィールドは、スクリプト実行プログラムの設定変更のコンテキストを示すために [External_Script_Executor] オプションに移動されました。以前のリリースでは、このフィールドは [Docker] オプションの一部でした。詳細については、「[Per Cloud Region \(Required\)](#)」の「CCO」>「Configure CCO Wizard Properties」を参照してください。これは変更です!

アップグレード手順

CloudCenter [4.6.0](#) 以降のリリースのみ CloudCenter 4.8.1 にアップグレードすることができます。

CloudCenter 4.8.1 にアップグレードするには、「[Upgrade Overview](#)」を参照してください。

アーキテクチャ

更新なし

クラウド

• vCD:

- ブラウンフィールド VM を VMware vCD からインポートして、CloudCenter プラットフォームから管理できるようになりました。詳細については、「[VM Management](#)」を参照してください。
- VM の動作として、さらに [ボリュームの接続 (Attach Volume)] と [ボリュームの切断 (Detach Volume)] がサポートされるようになりました。詳細については、「[Actions Library](#)」を参照してください。
- CloudCenter 4.8.1 よりも前では、vcdconfig ファイルが存在しない場合、vCD Cloud アカウントの設定時に追加の手順を実行する必要がありましたが、この手順は不要になりました。詳細については、「[Configure Cloud\(s\)](#)」の「*Configure a vCD Cloud*」を参照してください。
- CloudCenter 4.8.1 以降のリリースでは、クラウドアカウントの設定で [vCloud OrgVdc]、[vCloud OrgVdc 共有ネットワーク (vCloud OrgVdc Shared Network)]、[vCloud 分離ネットワーク (vCloud Isolated Network)] フィールドを利用できなくなりました。詳細については、「[Configure Cloud\(s\)](#)」の「*Configure a vCD Cloud*」を参照してください。Organization Virtual Datacenter はクラウドの設定に必要ありません。代わりに、「[Deploy](#)」フォーム送信プロセスの一環として選択できます。Deploy フォーム送信プロセスの *OrgVDC* ネットワークドロップダウンの一部として、*OrgVDC* 分離ネットワークや共有ネットワークを選択できます。
- **vmnaming** と **ipam** コールアウトがサポートされます (詳細については、「[Callout Scripts](#)」を参照)。さらに、「クラウドリージョン (Cloud Regions)」ページで [インスタンス命名戦略 (Instance Naming Strategy)] フィールドと [インスタンス IPAM 戦略 (Instance IPAM Strategy)] フィールドを使用できるようになりました。詳細については、「[Configure Cloud\(s\)](#)」の「*Configure a vCD Cloud*」を参照してください。
- 複数 NIC のサポートでは、イメージ定義に番号を追加することで VM に割り当てる NIC の番号を指定することができます。プロファイルは、イメージから NIC の番号と、いつアプリケーションを導入したかを継承します。詳細については、「[IP Allocation Mode](#)」の「vCD」を参照してください。
- 保存されているデフォルト設定は持ち越されないため、CloudCenter 4.8.1 にアップグレードした後、再び展開環境のデフォルトを選択して保存する必要があります。

• Google Cloud:

- ブラウンフィールド VM を Google Cloud からインポートして、CloudCenter プラットフォームから管理できるようになりました。詳細については、「[VM Management](#)」を参照してください。詳細については、「[Public Clouds](#)」を参照してください。
- VM の動作として、さらに [ボリュームの接続 (Attach Volume)] と [ボリュームの切断 (Detach Volume)] がサポートされるようになりました。詳細については、「[Actions Library](#)」を参照してください。
- CloudCenter プラットフォームは、Google Cloud に対して *vmNaming* と *ipam* コールアウトスクリプトをサポートしています。詳細については、「[Callout Scripts](#)」および「[VM Name Config](#)」を参照してください。

- 現行の CloudCenter 4.8.1 では、Google Cloud アカウント設定のプロジェクト ID は**オプション**です。また、[Deploy](#) フォームのクラウド設定セクションで選択したプロジェクト ID が VM の展開場所となります。詳細については、「[Configure Cloud\(s\)](#)」の「[Configure Google Cloud](#)」を参照してください。
- Google Cloud のインスタンスは、[タイプ (Type)] ボリューム属性の値として、[Standard Persistent Disk]、[SSD Persistent Disk]、または [Local SSD Scratch disk] のいずれかを表示します。詳細については、「[Multiple Volumes](#)」を参照してください。
- **Azure RM:**
 - Microsoft Azure [Government](#) のリージョン (米国政府アイオワ州/バージニア州) がさらにサポートされるようになりました。
 - CloudCenter プラットフォームは、これらのリージョンに対して管理対象ディスクやカスタム イメージをサポートしていません。
 - 詳細については、「[Public Clouds](#)」を参照してください。
- **新しいイメージ**は、シスコ (アプリケーション VM (ワーカー) イメージ) によって提供されます。
 - AWS、VMware、AzureRM、OpenStack、SoftLayer に対する Windows 2016 のサポート。
 - VMware および OpenStack に対する Ubuntu 14 のサポート。
 - 詳細については、「[Base OS Images](#)」を参照してください。

アプリケーションとサービス

- CloudCenter プラットフォームでプロビジョニングされる RDS MySQL のバージョンが、5.6.23 から 5.6.35 に変更されました。詳細については、「[Services](#)」の「[PaaS Support](#)」を参照してください。**これは変更です!**

CloudCenter の管理

- **展開の管理:**
 - Deploy フォーム送信プロセスの一環として [Organization Virtual Datacenter (vCloud OrgVdc)] フィールドを選択できます。Deploy フォーム送信プロセスの OrgVDC ネットワークドロップダウンの一部として、分離ネットワークや共有ネットワークを選択できます。詳細については、「[Deployment Environment Defaults](#)」または「[Environments](#)」を参照してください。
 - Cron ユーティリティは 02:00 (CCM システム時間) にバックグラウンドで実行され、ステータスが [エラー (Error)] になっているジョブ/展開に対して VM を自動的に終了させます。詳細については、「[Deployment and VM States](#)」の「[Auto-Clean up of Resources](#)」を参照してください。
- **仮想マシンの管理:**
 - インポート済み VM のインポートアイコンが変更されました。サンプルのスクリーンショットおよび詳細については、「[VM Management](#)」を参照してください。
 - VMware vCD および Google Cloud から CloudCenter に、VMware vCD や Google Cloud のブラウフィールド VM をインポートできるようになりました。詳細については、「[VM Management](#)」を参照してください。
- **カスタムアクションの管理:**
 - AgentLite がインストールされているインポート済み VM はカスタム スクリプト/コマンドを実行できます。現行の CloudCenter 4.8.1 では、カスタム アクションの作成時に `actionSendMessage` 関数を呼び出すと、さらに、これらのスクリプトによってステータス メッセージを CloudCenter プラットフォームに返送できます。
 - 詳細については、「[Actions Library](#)」の「[Action Definition Section](#)」 > 「[Execute From Bundle](#)」を参照してください。

管理およびガバナンス

- また、ユーザベースの [グループ (Groups)] フィルタを使用して CloudCenter リソースをフィルタ処理できます (上記の強調表示されている画像を参照)。詳細については、「[Reports Overview](#)」を参照してください。
- cliqr-user-security-group_userId セキュリティグループ名:
 - [createUserSecurityGroup] と [allowVmConnection] の両方を [はい (true)] に設定すると、AWS、Alibaba および OpenStack のクラウドに対してこのセキュリティグループ名が作成されます (詳細については、「[Create Tenant](#)」の API の変更を参照)。
 - Google クラウドの場合、次のようなセキュリティグループ名が作成されます。**これは変更です!**
 - CloudCenter 4.8.1 よりも前: *networkName-cliqr-job-worker-userId*
 - 現行の CloudCenter 4.8.1: *networkName-c3-user-userId-ruleId*
- Google クラウドの場合、次のような *cliqr-firewall-** セキュリティグループ名が作成されます。**これは変更です!**
 - CloudCenter 4.8.1 よりも前: *networkName-cliqr-firewall-uniqueId*
 - 現行の CloudCenter 4.8.1: *networkName-c3f-uniqueId-ruleId*
- 詳細については、「[Security and Firewall Rules](#)」を参照してください。

セキュリティ

- Enable Microsegmentation 機能の名前が変更されました。**これは変更です!**
 - 新しい名前: [階層間通信 (ファイアウォール ルール) (Inter-Tier Communication (Firewall Rules))] (新しいサブセクションのタイトルとして)
 - 対応するチェックボックス: [接続階層間の一方向サウスバウンド通信を制限 (Restrict to one-way south-bound communication between connected tiers)]
- Google クラウド ファイアウォール タグ (ユーザごとに *networkName-cliqr-job-worker-userId* という名前を作成)。このファイアウォール タグは、ユーザによって展開されたアプリケーションのすべての VM に添付されます。テナント設定に指定するファイアウォール ルールを設定できます。
- アプリケーション プロファイルの階層レベル ファイアウォール ルールに異なる CIDR を持つルールがある場合、ファイアウォール タグが適切に設定されませんでした。これに代わり、異なるソース CIDR に対して個別の再利用可能なファイアウォール タグを使用できるようになりました。
- 詳細については、「[Security and Firewall Rules](#)」を参照してください。

サポート終了通知

詳細については、「[End of Life Notices](#)」を参照してください。

廃止予定

CloudCenter 4.8.1 では、次の機能が廃止されます。

- `PaymentProfileRequired` 属性は CloudCenter 4.8.1 以降のリリースで廃止されます。この属性は、以前のリリースの「[Plan Management APIs](#)」で使用されました。
- CloudCenter 4.8.1 以降のリリースでは、Microsoft Azure Classic のサポートが廃止される予定です。マニュアルや CCM UI の一部のページでは、可能な選択肢として Azure Classic がまだ表示されることがあります。しかし、これらの選択肢も次回のリリースで削除される予定です。


CCM UI

- [ブラウザの互換性 (Browser Compatibility)]: ブラウザごとに 2 つの最新バージョンがサポートされます。互換性のあるブラウザの一覧については、「[Browser Compatibility](#)」を参照してください。
- [ローカライゼーション (Localization)]: 詳細については、「[UI Behavior](#)」を参照してください。


API

CloudCenter 4.6.0 では、必要に応じて v2 API が導入されます。新しい API を初めて導入した場合、その API は引き続き v1 を使用します。v1 がまだその API の第 1 バージョンであるからです。次の一覧では、CloudCenter 4.8.1 の新規 API と更新された API を区別します。

- **新規 API:**
 - VM 管理 API:
 - [Sync VM](#)
 - [View VM User Data](#)
 - 所有権管理 API:
 - [Update Ownership Transfer](#)
 - [View Deployments and VMs](#)
 - 新しい使用例:
 - [Importing Unmanaged VMs](#)
 - [Transferring Ownership](#)

 このプロセスには CloudCenter API だけを使用します。現時点では、UI ソリューションは利用できません。

- [Migrating Deployments](#)

 この手法は、CloudCenter 3.2.6 から 4.8.1 に移行する場合に利用できます。このパスはテストして確認済みです。

- **更新された API:**

- [View Job Details](#) API: CloudCenter 4.8.1 以降のリリースでは、応答パラメータが拡張され、*virtualMachined* と *externalServiceInstances* が含まれるようになりました。
- [View Resource Summary Report](#) API: CloudCenter 4.8.1 以降のリリースでは、クエリパラメータとして *mySummaryOnly* 属性が追加されました。
- [View Actions](#): 例 4 が追加され、*actionCustomParamSpecs* と *actionResourceMappingAncillaries* 属性の説明が含まれるようになりました。
- [View Usage Details Report](#): 拡張され、*userGroups* 属性が含まれるようになりました。さらに、この API ではクエリパラメータとして *userGroupId* を使用できます。
- [CreateTenant](#): CloudCenter 4.8.1 で拡張され、*createUserSecurityGroup* と *allowVmConnection* 属性が含まれるようになりました。

統合

- **コールアウトスクリプト:**

- IPAM コールアウトスクリプトの *NicGateway_n* パラメータは省略可能です。これは変更です!
- 詳細については、「[Callout Scripts](#)」の「*Supported Properties*」を参照してください。

資料

このセクションでは、CloudCenter 4.8.1 で実装されたドキュメントの変更を一覧表示します。

- CloudCenter 4.8.1 での変更: 本リリースのドキュメントの詳細については、この項に記載されているリンクを参照してください。
- 以下の項目は、CloudCenter 4.8.1 で実装されたドキュメントの変更を示しています。
 - [Virtual Appliances](#): クラウドに応じた配布メカニズムを更新
 - [AMQP LB](#): HAProxy コンフィギュレーション ファイルを変更
 - [HA for PostgreSQL DB on AWS](#): 「*Prerequisites*」の項を変更
 - [Use Case: ADFS SAML SSO](#): 「*SAML Authentication Configuration*」および「*ADFS Trust Settings*」の項に、会社と部署レベルの詳細情報を追加
 - [Deployment Lifecycle Scripts](#): 「*Node Terminate Workflow*」の項にアプリケーション プロファイルの表示手順を追加
 - [Configure Google Cloud](#): 文字カウントの詳細を追加
 - [Callout Scripts](#): 「*Sample IPAM Callout Script*」の項およびプロパティテーブルを変更
 - [Configure the Admin Account](#): ステップ 2 のテナント ID の微妙な違いを変更
 - [Jenkins](#): Jenkins バージョン 1.624 を強調
 - [IP Allocation Mode](#): VMware クラウドの微妙な違いを変更して、vCD クラウドの設定で *allocatePublicIp* 属性がサポートされないことを示す。
 - [Resource Placement and Validation](#): 各スクリプトの呼び出し頻度に関する詳細を更新
 - [System Tags](#): タグの制限を追加
 - [Upgrade Overview](#): *core_upgrade.bin* ファイルのアップグレードの詳細を追加

既知の問題

CloudCenter 4.8.1 には次のような既知の問題があります。

- アプリケーションで CephFS や NFS サービスを使用する場合は、それらのサービスを永続的な秘密キーまたはデフォルト (SSH オプションの初期設定なし) を使用して展開してください。[SSH 公開キーの割り当て (Assign SSH Public Key)] オプションを使用すると、ストレージブラウザが機能しません。詳細については、「[SSH Options](#)」を参照してください。
- 永続ボリュームが接続している状態でアプリケーションを VCD クラウドに展開すると、展開のステータスが [進行中 (In Progress)] のままになり、[展開済み (Deployed)] に変化しないことがあります。この問題は、(ボリュームが接続している) アプリケーション層がサービス展開状態のままになることにより引き起こされます。デフォルトで追加のボリュームが /mnt にマウントされている可能性があり、その場合、マウントされていないボリュームの検索を試みると、サービスのステータスが [進行中 (In Progress)] のままになります。この問題は、アプリケーションを一時停止してから再開する場合にも観察されました。この問題を回避するには、VM への接続に SSH を使用するか、VM を再起動することによって、アプリケーション層に接続している永続ディスクをマウント解除します。

解決済みの問題

次の問題は、CloudCenter 4.8.1 で解決済み/対応済みです。

- **問題:** SoftLayer クラウドに対してワーカー VM を展開すると、動的ブートストラップが失敗する。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、SoftLayer 固有のブートストラップ スクリプトをゲートウェイ プロパティ ファイルに含めるようにする修正プログラムが含まれています。
- **問題:** ネットワーク名が 16 文字よりも多い場合、Google Cloud への CloudCenter の展開に失敗する。
解決策: CloudCenter プラットフォームはネットワーク名に一意の ID を付加してファイアウォール ルール名を作成することに留意してください。ネットワーク名は、最大 24 文字 (ネットワーク名) + 39 文字 (一意の ID) = 合計 63 文字になります。例: abcdefghijklmnopqrstuvw c3f462828f37a06acd3ee194716bfe10d。
- **問題:** 展開のステータスが [終了 (Terminated)] になるが、インスタンスが実行状態のままになる。CCM UI からこのインスタンスを削除しようとする、CloudCenter プラットフォームにより次のエラーが表示される: 「ERROR MESSAGE - Terminated is not a valid state for operation terminate. It should be in Deployed/Error/In Progress/Migrate Pending/Migration Error/Migrating/Resuming/Stopped/Stopping/Stopping Error/Submitted/Suspended/Suspending/Terminating/Upgrade Error/Upgrade Rolled back/Upgrade Rollback Error/Reconfiguring/Scaling state.」
解決策: CloudCenter 4.8.1 にはこの問題に対処する修正プログラムが含まれています。展開が終了した (クラウドに存在する) インスタンスを終了する必要がある場合は、CloudCenter プラットフォームでそのインスタンスを終了できます。
- **問題:** 初期化スクリプトを使用してアプリケーションを展開すると、`nodeCleanup` スクリプトからエラーが返されることがある。CloudCenter プラットフォームは、5 分ごとにノードクリーンアップスクリプトを監視して自動的にタイムアウトし、タスクが 10 分よりも長く実行されている場合にこのエラーを発行します。
解決策: CloudCenter 4.8.1 では、ゲートウェイ プロパティ ファイルで設定できる新しいプロパティ `node.cleanup.timeout=300` が導入されました。この必須プロパティを使用して、ノードクリーンアップスクリプトのタイムアウトを制御できます。また、CCO ウィザードも拡張され、[Config_Duration] 画面が含まれるようになりました。詳細については、「[Per Cloud Region \(Required\)](#)」の「CCO」>「Configure CCO Wizard Properties」>「Config_Duration」を参照してください。
- **問題:** NFSv3 データストアに十分な容量がある場合でも、[ボリュームの接続 (Attach Volumes)] ボタンを使用して展開すると、2 TB よりも大きいボリュームの接続に失敗する。ただし、vCenter を使用している場合、ユーザは手動でボリュームを追加できた。
解決策: CloudCenter 4.8.1 にはこの問題に対処する修正プログラムが用意されており、[ボリュームの接続 (Attach Volumes)] ボタンは設計どおりに機能するようになりました。
- **問題:** 値を変更していない場合でも、アプリケーションを編集して保存すると、アプリケーション プロファイルの編集可能なメタデータの値が消去される。
解決策: CloudCenter 4.8.1 にはこの問題に対処する修正プログラムが用意されており、編集操作は設計どおりに機能するようになりました。

- **問題:** ユーザのメールアドレスに大文字と小文字が混在している場合に、[パスワードのリセット (Password Reset)] 画面でユーザを検索できない。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、大文字と小文字が混在するメールアドレスを使用している場合でも、ユーザがパスワードをリセットできる修正プログラムが含まれています。
- **問題:** 展開時に、インポートした(zip)アプリケーションのカスタム グローバル パラメータ パスワードが復号されない。
解決策: セキュリティ上の理由から、CloudCenter プラットフォームは、アプリケーションのエクスポート時にパスワード パラメータを暗号化します。CloudCenter プラットフォームにパスワード パラメータの暗号化が導入される以前にエクスポートされたアプリケーションでは、プレーンテキストのパスワードが使用されている可能性があり、それらのパスワードはインポート後に動作しません。そのような場合は、アプリケーションのインポート後にパスワードを手動で編集する必要があります。
- **問題:** 既存の展開を含むガバナンス タグを使用すると、アプリケーション プロファイルが機能しない。ユーザが既存の展開を使用してモデル化されたアプリケーションを展開しようとするときに、選択肢のリストにそれが含まれない。
解決策: 既存の展開を表示するには、それらを同じ展開環境(展開が行われた環境)から実行する必要があります。エラー処理が改善され、適切なメッセージが表示されるようになりました。
- **問題:** リポジトリの追加時に、CloudCenter 4.8.0 のリストから AWS eu-west-2 リージョンが欠落している。
解決策: CloudCenter 4.8.1 にはこのリージョンを反映する修正プログラムが含まれています。
- **問題:** ブラウザで HTML ソースを表示したり要素の検査を実行したときに、リポジトリ設定に設定されているリポジトリ プロバイダーのパスワードがプレーン テキストで表示される。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、ブラウザでの HTML ソースの表示時や要素の検査時にパスワードを暗号化する修正プログラムが用意されています。
- **問題:** 「Descriptor File: Sample 3」([「Prerequisite Checker JSON File」](#)に記載)に示されている JSON ファイルを使用すると、network_validator.py スクリプトがエラーになって失敗する。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、「Descriptor File: Sample 3」([「Prerequisite Checker JSON File」](#)に記載)のファイルを設計どおりに動作させる修正プログラムが含まれています。
- **問題:** VMware 6.0.0 および ACI 2.0(2g) と共に CloudCenter 4.8.0 を展開すると、外部ネットワーク パラメータの形式エラーにより展開に失敗する。
解決策: 現行の CloudCenter 4.8.1 では、外部ネットワークは使用するコントラクトのリストに展開関連のコントラクトを含んでいるため、形式エラー メッセージが表示されることはありません。
- **問題:** CloudCenter 4.7.3 のローカル パッケージ ストアをインストールするときに、一部のユーザが UI Web ページを開くことができなかった。
解決策: これはバグではなく、このリリース向けに設計された動作です。「[Configure a Local Package Store](#)」ページの手順 8 で、*Repo 設定ウィザード*を呼び出して、設定ウィザードにより*基本プロパティを設定すること*について説明しています。
- **問題:** Sync Instance Types プロセスが [repo.cliqrtech.com](#) へのアクセスを試みた場合、この環境はインターネットへのアクセス権を持っていないため、プロセスが失敗する。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、「[Sync Cloud Instance Types](#)」プロセスを設計どおりに動作させる修正プログラムが含まれています。
- **問題:** Internet Explorer の使用時に CCM UI を介してユーザの電子メールまたは電話番号を変更すると、CCM UI から応答がなく、情報が変更されない。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、Internet Explorer の使用時にユーザが UI を介して電子メールやパスワードの詳細を変更できるようにする修正プログラムが含まれています。
- **問題:** 一部のカスタマーで、Shibboleth によって渡されたグループに関して、アプリケーションでのロールの割り当てで問題が発生した。グループはアプリケーションに表示されるが、どのロールも割り当てることができない。
解決策: Shibboleth 統合ドキュメントは CloudCenter の旧バージョンのみを対象としていました。この問題は CloudCenter と統合する場合の Shibboleth の設定に関する問題であるため、CloudCenter 4.8.1 にはコードの修正は含まれていません。
- **問題:** IE や Firefox ブラウザの使用時に CCM UI で複数のレンダリング問題が発生する。
解決策: CloudCenter 4.8.1 にはこれらの問題に対処するための複数の修正プログラムが含まれており、IE や Firefox ブラウザの使用時に CCM UI は設計どおりにレンダリングします。

- **問題:** SSO の設定時に、ユーザに 2 つのベンダー管理レコードが残される。初期レコードの削除を試みても、[ベンダー管理者の管理 (Manage Vendor Admins)] ページを表示すると、引き続きレコードが表示される。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、削除されたベンダーを [ベンダー管理者の管理 (Manage Vendor Admins)] ページに表示しないようにする修正プログラムが用意されています。
- **問題:** RHEL 7 にパッチを適用した後、PostgreSQL クラスタが起動しない。
解決策: これはバグではありません。正しいプロセスが 2 つのドキュメント ([「Graceful PostgreSQL Reboot」](#) および [「PostgreSQL Trouble shooting」](#)) に記載されています。このプロセスに従うことにより、PostgreSQL クラスタを設計どおりに起動させることができます。
- **問題:** ローカル パッケージ リポジトリに RDP ライブラリが含まれておらず、その後 Guacamole サーバで使用できない。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、[repo.cliqrtech.com](#) に RDP ライブラリを含めるようにする修正プログラムが含まれています。
- **問題:** 1 つのジョブで 50 のノードを起動できない。ノードはクラウド上では起動するが、CloudCenter 側からはスタック状態になる。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、スタック状態になることなく、50 以上のノードを含むジョブを起動できるようにする修正プログラムが用意されています。
- **問題:** 展開や環境などの関連リソースを含む未使用のクラウド/リージョンを削除できない。
解決策: ユーザが関連リソースを含むクラウド/リージョンの削除を試みると、CloudCenter プラットフォームは、特定のクラウドリージョンにまだリンクされている展開や展開環境のリストと共に詳細なエラーメッセージを表示します。
- **問題:** テナントを削除しても、そのテナントが SAML 設定ページに表示され続ける。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、削除されたテナントを SAML 設定ページに表示しないようにする修正プログラムが含まれています。
- **問題:** [パブリック IP (Public IP)] オプションがオンになっていない場合に、ユーザが AzureRM クラウドに CloudCenter を展開できなかった。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、[パブリック IP の割り当て (Assign Public IP)] がオンになっていない場合でも、AzureRM クラウドに正常に展開できるようにする修正プログラムが含まれています。
- **問題:** テンプレートまたはスナップショットが展開クラスタ以外のクラスタにある場合、VMware でスケーリングに失敗する。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、特定のクラスタ内の特定のデータストアにあるスナップショットやテンプレートを、別のデータストアクラスタ内の別のデータストアに展開してスケーリングできるようにする修正プログラムが含まれています。
- **問題:** 階層内の 1 つのノードでアップグレードを開始した場合、そのノードのアップグレードが終了するまで同じ階層内の他のノードをアップグレードできない。このため、各ノードが個別の VM にあるにもかかわらず、同時に 1 つのノードしかアップグレードできない。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、同じ階層内のノードを並列アップグレードできるようにする修正プログラムが含まれています。
- **問題:** ユーザがアクション ポリシーを使用してアプリケーションの展開を試みた場合に、アクション ポリシーがスクリプトに従って実行されない。
解決策: MongoDB がダウンしたため、通知サービスもダウンしてしまいました。これにより、ポリシーが実行されませんでした。MongoDB が稼働状態になると、スクリプトは設計どおりに実行されました。
- **問題:** 簡易ネットワークを使用して既存の ACI コントラクトを展開に適用すると、ACI の EPG にコントラクトが追加されない。簡易ネットワークを使用しない場合は、EPG にコントラクトが正常に追加される。
解決策: CloudCenter 4.8.1 には、多層およびマルチ NIC の設定によって既存の ACI コントラクトを展開に適用するための修正プログラムが含まれています。
- **問題:** SSH 暗号 aes256 ctr、aes192 ctr、aes128 ctr を、Web コンソール SSH クライアントからサポートする必要がある。
解決策: core_installer ファイルを使用して CloudCenter コンポーネントをインストールすると、これらの暗号と共に SSH 設定が更新されます。